

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
安心・安全な学校づくり ①事故防止、感染症予防対策の徹底 <下位組織レベル> ①事故防止対策の徹底 ②生徒間の課題に対する解決策の立案	(全校レベル) II) 事故防止、感染症予防対策の徹底 <下位組織レベル> ①事故防止対策の徹底 ②生徒間の課題に対する解決策の立案	評価指標 ①自力通学生が事故防止やマナー遵守を意識しながら通学することができる。	評価指標の達成度 ①バス停での通学指導や集会活動を行うことができた。	別紙 (評定) B (所見) ①組織的な生徒指導について、職員間で様々な意見を出し合うことができた。 ②自力通学生徒の登下校時の状況や安全意識、マナー意識を知ることができた。	①生徒指導を組織的に推進する。 ②登下校時の状況確認や生徒の安全意識、マナー意識をさらに向上・充実させる。
		②生徒間の課題に対して解決策を提示することができる。	②生徒間に解決すべき課題が生じたときに、関係者と相談して解決策を提示することができた。		
		活動計画 ①-1 学校安全の日や長期休業明けに阿南駅と南島バス停、坂下横断歩道で通学指導を行う。	活動計画の実施状況 ①毎月学校安全の日、年度初め4日、夏休み明け2日、冬休み明け2日の通学指導を、阿南駅、南島バス停で行った。また、坂下横断歩道で自転車通学生徒の指導を6日行った。		
		①-2 学校安全の日自力通学生の集会を行う。	②毎月学校安全の日10~20分程度の集会を行い、交通安全やマナーについて確認した。		
		②校内やスクールバス内での生徒間の課題について、関係する教職員で解決策を協議する。	③クラス担任やバスの添乗者から連絡があった事案について関係者で課題解決策を相談したり、生徒指導委員会を開いたりした。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
多様性を育むキャリア教育の展開 (全校レベル) II) 卒業後を見据え、成長に応じた指導内容の精選 III) 教員の専門性、指導力の向上 <下位組織レベル> ①指導内容系統表をより活用しやすいものにする。 ②子どもたちが自信を持って参加できる授業作りや問題行動の改善のために、全学部で専門家派遣事業を活用する。	(全校レベル) II) 卒業後を見据え、成長に応じた指導内容の精選 III) 教員の専門性、指導力の向上 <下位組織レベル> ①指導内容系統表をより活用しやすいものにする。 ②子どもたちが自信を持って参加できる授業作りや問題行動の改善のために、全学部で専門家派遣事業を活用する。	評価指標 ①指導内容系統表について全学部対象のアンケートを行い、「以前より捉えやすいものになってきている」との回答を教員の80%以上から得る。	評価指標の達成度 ①指導内容系統表を改訂し、学校全体で試行。全教員対象にアンケートを行い80%の回答率であった。教員からは以前より使いやすくなったとの回答を教員の85%から得ることができた。	別紙 (評定) B (所見) ①指導内容系統表については、昨年度の課題をもとに、系統表の中にさらに短期目標の「具体例」を取り入れ、全学部の教員の活用に取り組んだ。「分かりやすくなった」という回答が多くあり、実際すすめていくにあたって、さらに具体例の追加が必要であると考えられた。また、卒業後の生活を考えてすすめていくにあたっては必要とする目標と系統表の内容にずれがある。(高等部)という意見に対しては、再度、道路別チェックリストと系統表から精選し、高等部の生徒を対象とした系統表の検討を図っていく必要がある。 ②専門家派遣事業(コンサルテーション)では、小学部・中学部でAI-PACの取り組みを進めることができ、高等部では、卒業後の進路を考えた指導をすすめていくにあたって、課題となる点について講師のアドバイスをいただきながら、教員間で共通理解する時間をもち、共有することができた。	①高等部生徒を対象とする指導内容系統表を見直す。 ②コンサルテーションを充実させ、教員間で共有する。
		② 専門家派遣事業を活用したコンサルテーションに参加し、授業作りや問題行動の改善に役立ったと回答した教員が全体の90%以上になる。	②コンサルテーションに参加した教員8名にアンケートを実施した。授業作りや普段の指導に対して、問題行動の改善に対して、8名全員が「大変役立った」「役だった」と回答した。		
		活動計画 ①-1 夏季休業中に、新任者及び希望者を対象に指導内容系統表の使い方についての研修を行う。	活動計画の実施状況 ①-1各学部で、新任者と希望者を対象として、使い方等についての研修を行った。		
		①-2 夏季休業中に、昨年度までの項目に加えて、研究課員によって「具体例」を追記する。	①-各研究課員によって、一人10項目程度の「具体例」追記していくことができた。		
		①-3 高等部において、「指導内容系統表」と卒業後の生活を見据えた道路別チェックリストの項目の精選及び内容のすりあわせについて、「ワーキンググループ」を設定し研修を行う。 ②-1 研究課員の中から研修担当を配置し、計画書作成や指導、研修の実施に当たって、担任や担当をサポートする体制を構築する。 ②-2 コンサルテーションを実施し、指導手続きの話し合いの機会を2回設定するとともに学部研修会や報告会を1回以上開催する。	①-3教員間で研修を行うことはできなかったが、職業課の担当者と内容のすりあわせの進め方について相談を行った。 ②-1各学部で研修担当を配置することで、担任をサポートしていくことができたが、研修担当リーダーは学部が進っていたためサポートが十分にできていないことが多かった。 ②-2小学部は、AI-PACのコンサルテーションを9月・12月・1月に実施した。3事例で取り組み、それぞれ新しいスキルを習得するなど指導の成果があった。また、中学部では、不登校に関する取り組みのコンサルテーションを9月・2月に実施し対応に悩んでいる1事例について講師のアドバイスを受けながら教員間でアイデアを出し合い検討し共有する機会をもつことができた。高等部では、自立活動のテーマに沿った学部間での取り組みとしてコンサルテーションを9月・1月に実施し、教員が対応に悩んでいる事例や学部の中で取り組んでいることと共有する共有アイルについて講師のアドバイスを受けながら検討し共有する機会をもつことができた。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった